

ティーチング・ポートフォリオ

心理学科 鷗召 秀行

(記入日:2020年9月1日)

1 教育の責任 (何をやっているか:担当科目)

心理学概論(1年前期必修科目2単位)、心理学概論(応用)(1年前期選択必修科目2単位)、心理学実験(基礎)(応用)(2年前期必修科目、後期選択必修科目、各2単位)、認知心理学概論(2年前期選択必修科目2単位)、心理学概論特講(1)(2)(大学前期 後期選択必修科目、各2単位)など

2 理念 (なぜやっているか:教育目標)

私の教育理念・目標は、学生が科学的方法によって心を理解し、さらに自ら問題を具体的に設定し、身の回りの人的・文法的資源と積極的に関わりながら、主体的に問題解決に至る態度を身につけることである。

3 方法 (どのようにやっているか:実践の工夫)

今年前期は、遠隔授業をMS365のTeamsを利用して実施した。Teams内の「ファイル」にパワーポイントなどで作成した資料を用意し、Formsを利用した「課題」を毎回実施して学生に回答を求め、その結果を出席確認と平常点評価に活用した。心理学概論においては、インターネット上の計算サイトを使用させて演習を行わせた。心理学実験では、学生が自宅で実験を行うことが可能な材料を用意し、ビデオで実験方法を指導した。レポートの提出、フィードバック、返却はすべてTeamsの「課題」を活用した。

4 成果 (どうだったか:結果と評価)

心理学概論においては、チャットやメールでの質問など、積極的に参加する学生もおり、遠隔授業の運営に大きな問題がなかった。やりとりが困難であった1名については、郵送で資料を送付した。基礎実験のレポート作成と提出なども、遠隔授業で可能であったが、レポートの質が必ずしも十分ではなかった。また、演習や卒業論文の指導では、遠隔授業の限界も見られた(エビデンス1)。

5 今後の目標 (これからどうするか)

後期は、対面形式によって前期の遠隔授業で不十分な点を指導する。さらに、前期のOffice365 Teamsで活用した資料配布と課題提示を継続し、対面授業とICTを活用した授業方法を総合して授業を運営する。心理学実験、演習、卒業論文指導などでは、対面によって個人指導を十分に行う。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- 1 Office 365 Teams 各科目のグループ (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

田中 裕

(記入日： 2020年 9月 29日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

心理学概論 (基礎) (1年前期必修科目 2単位)、心理学実験 (基礎) (2年前期必修科目 2単位)、心理学実験 (応用) (2年後期選択必修科目 2単位)、神経・生理心理学 (3年前期選択必修科目 2単位)、心理行動科学研究法 (1) (大学院1年前期選択必修科目 2単位) など。

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

私の教育理念・目標は、学生自身に潜在化している「人間は生物」である視点から心を理解することである。日常生活の中に根づいているこの視点を出発点として、自ら問題を具体的に設定し、学生の身近な存在を使って主体的な問題解決に至る方向へ導くよう心がけている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

自身に潜在化する視点から主体的な問題設定から解決に至る機会を作るために、心理学概論 (基礎) では複数の授業テーマで動物と人間の比較の観点を持たせた。心理学実験 (応用) では、自身の自律神経系活動をデータとして扱い、相互協力によるレポート課題解決から、神経系活動の多くが他生物と共通であることを明確化させた。神経・生理心理学および心理行動科学研究法 (1) では、脳・身体活動の説明において、人間と他生物の比較を積極的に行った。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

心理学概論 (基礎) では、日常生活における身近な生物 (たとえば飼育しているペットと) の比較しながら「心」を捉える頻度が高まったことが確認された。神経・生理心理学および心理行動科学研究法 (1) では、脳・身体活動の理解が深まった。心理学実験 (応用) ではレポート作成時に配布資料を用意して内容理解の促進を心がけたが、十分な成果は得られなかった (全てエビデンス 1)。

5 今後の目標 (これからどうするか)

どの授業においても、「人間は生物」という視点を持った主体的な問題解決する方向を向かせることはできたと考える。しかし、実際の問題解決時における情報量が多いことによる理解低下が一部確認された (特に心理学実験 (応用))。そのため、事前学修によって授業で扱う情報量分散をはかりたい。

6 エビデンスとなるもの (資料の種類などの名称)

- 1 リアクションペーパー (非公開)

ティーチング・ポートフォリオ 心理学科 簗下成子（記入日：2020年9月29日）

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目） 心理学演習（3年通年必修科目4単位）、心理アセスメント実習（3年通年選択必修科目4単位）、臨床心理学実習（4年通年選択必修科目4単位）、臨床心理基礎実習（大学院通年必修科目4単位）、臨床心理実習Ⅰ（1）（心理実践実習）（大学院通年必修科目2単位）、臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習）（大学院通年必修科目4単位）臨床心理面接特論Ⅰ、Ⅱ、臨床心理査定演習Ⅰ、Ⅱ（大学院前期、後期必修科目、各2単位）等

2 理念（なぜやっているか：教育目標） 私の教育理念・目標は、学生が臨床心理学の知識と実技を座学と演習、実習により習得し、習得した技術を心理援助に実践できることである。心理臨床専門家としての援助技法を習得する。さらに、臨床心理的援助法の開発と研究手法も身につける。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫） 演習授業の場合、学生が主体的に学べるように、実際に受動的音楽療法などを体験させ、その前後の気分変化を尺度等を用いて各種療法の効果などを記述させる。また、各種心理尺度を体験しフィードバック用のレポートを書くよう指導した。実習授業の場合、複数教員担当の授業などでは、教員同士のロールプレイを観察させた後に学生同士のロールプレイを実演し、振り返り、ディスカッションなどを経て心理臨床専門家としての技術を研鑽させた。特に今年度は、前期のオンライン授業であったため、対面とは異なり、クライアント役の印象をカウンセラー役が捨てるのが困難であった。しかしながら、対面演習ではありえないことであるが、ロールプレイ役以外の立場の学生が音声をオフにして、自分も一緒に練習できるため、対面演習よりも何倍も練習の場数を踏むことができた。

4 成果（どうだったか：結果と評価） 演習授業の場合、学生が積極的に文献検索やレビューを行い、問題を見出し、研究計画を立て、実際に調査できた。実習授業の場合、学生が実際に模擬面接を行い、インタビュー方法、利用者とのかかわり方、表現方法などを学ぶことができた。今年度は残念ながら新型コロナの影響から大学外部での実習を自粛したが、外部実習先の講師にオンラインで内容の濃い実践的な実習を行ってもらい、将来現場で知っておくべきこと、立ち居振る舞い、支援内容などを解説してもらった。そのことにより、例年よりも内容は踏み込んだものになり、単に見学に出かけるよりも現場で起こりがちな失敗や失敗をカバーする手法や、回避する技術をも学ぶことができた。

3で述べたように、オンライン演習により、例年よりもカウンセリングの姿勢が早く習得できた印象である。後期になっていよいよ対面カウンセリングを行っているが、大学院生の上達の速さを体感している。

5 今後の目標（これからどうするか） 演習授業で授業外に個別に資料収集とレポート作成を行う機会を増やす。またビッグデータ等の情報に普段からアクセスできるようにする。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称） 授業紹介ホームページ：
<https://www.kgwu.ac.jp/2020/09/03/%E5%A4%A7%E5%AD%A6%E9%99%A2%E3%83%AA%E3%83%A2%E3%83%BC%E3%83%88%E5%AE%9F%E7%BF%92%E5%A0%B1%E5%91%8A/>（公開資料） 川村学園女子大学心理相談センター紀要の実習報告（公開資料）

ティーチング・ポートフォリオ

北原 靖子（記入日：2020年9月27日）

1. 教育の責任（担当科目）

心理学演習（3年通年必修）、特殊実験演習（3年通年選択必修）、心理学実（基礎）（2年前期必修）、基礎ゼミナール（1年前期必修）、発達心理学概論（2年前期選択必修）、児童心理学（3年前期選択必修）、心理学実験（応用）（2年後期選択必修）、心理実習（入門）（1年後期選択必修）、福祉分野に関する理論と支援の展開（大学院1年前期選択必修）、家族・集団・地域社会における理論と支援の展開（大学院1年後期選択必修）。

2. 理念（教育目標）

発達領域の心理学理論と実践を取り上げる関係上、知識や情報を身につけるだけでなく時間的展望の元で活用すること、ならびに、世代・性・性格・文化などによる多様性をふまえた人間性理解の視点をもつことを目指す。

3. 方法（実践の工夫）

今年度前半はオンライン講義であったが、本来理念を損なうことがないように、教材準備を丁寧に行った。基礎ゼミナールでは、他の2クラス担当教員と毎回事前事後で打ち合わせを行いつつ、アカデミックスキルの習得に焦点を当てて、学会サイトや官公庁の統計処理講義などを活用した。

また発達心理学関連でキーワードや理論について教える際には、「どこから来て、どこへ行くのか」の問いを与え、時間的な展望を意識させた。発達心理学概論では、学生は論文を講読するだけでなく、各自が固有の個性と育ちをもった主人公を設定し、「誕生日」から「老年期」に至るまで各時期に出会う課題を乗り越えてゆく（たとえば学童期であれば「社会性の発達を巡るトラブル」）ショートドラマを創造し、発表しあった。実習については、データ収集にオンラインを用いる（アンケートやインタビューをする）試みも行った。

4. 成果（結果と評価） 基礎ゼミナールでは、従来実施してきたキャンパス案内や仲間づくりなどができなかったのは残念だったが、その分じっくりとレポートの書き方の習得などに時間を費やすことができたので、学生たちの反応としては好評であった。またWEBアンケートの作り方を学んだりショートドラマをネット上で味わうなど、実習についても新しい体験をするとともにデジタルスキルの向上がなされた。心理臨床系の実習については後期からであり、今年度は実習先を絞り込んで行うので、現場についての知識を補う工夫が求められる。

5. 資料等 学生評価（UNIPA）、ショートドラマ（「発達心理学概論」講義内で紹介）

ティーチング・ポートフォリオ

桂瑠以

(記入日：2020年9月4日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

「心理学演習」「コミュニケーション論」「集団心理学」「特殊実験演習」「心理調査概論」「特殊研究」「卒業論文指導」など

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

教育理念・教育目標として、学生が心理学、とりわけ社会心理学領域に係わる学修を通じて、社会の様々な事柄に対して問題意識を持ち、それらの問題を多角的に考え、主体的に問題解決を行い、社会に貢献していく態度や能力を身に付けられるよう心がけている。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

学生が主体的・実践的に学修を進めることを目指して、授業等での工夫を行った。一例として、心理学演習などの授業では、文献検索・収集、発表資料の作成、レジメによる発表、討論をオンラインを通じて行い、各自が問題意識を持って学修を行い、学習成果を学生相互で共有し、学修を深められるように指導した。心理調査概論などの授業では、オンラインを介してインタビュー調査を行い、調査の目的、調査方法、結果のまとめ方、データ処理の方法等を学修し、実際に各自で調査を実施して、レポートを作成するように指導して、心理調査の方法や仕組みを実践的に学んだ。また、コミュニケーション論、集団心理学などの授業では、講義にあわせて、毎回、小レポート課題やリアクションペーパーを課し、学修内容の深化を図り、また挙げられた質問には可能な限り次回の授業で回答や説明を行い、双方向のやりとりになるように努めた。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

心理学演習、特殊実験演習、心理調査概論などにおいては、学生が主体的・実践的に学修を進め、授業時間外にも事前事後学習を行い、教員からの指導や学生同士での支援を生かして、発表やレポート作成の質を高めていったことが確認できた(エビデンス 1, 2)。一方、学修成果や学修意欲に個人差が生じている様子

も見られ、個別の支援をあわせて行いながら、そうした差異に柔軟に対応していくことが今後の課題と考えられる。

5 今後の目標（これからどうするか）

学生が、様々な社会事象や社会の問題に対して関心を持ち、自ら問題解決していけるような実践力を身に付けていくことが挙げられる。また、学修の意義や目的を理解し、自ら学修意欲を持って学修に取り組んでいくことを促す。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- 1 小レポート課題、リアクションペーパー(非公開)
- 2 前期末レポート(非公開)

ティーチング・ポートフォリオ

心理学科 佐藤 哲康

(記入日：2020年 9月30日)

1 教育の責任 (何をやっているか：担当科目)

青年心理学 (2年前期選択必修科目 2単位)、心理演習 (3年通年選択必修科目 4単位)、教育相談 (全学科共通教職必修科目、2~3年後期必修科目、各 2単位)、心理療法各論 I (大学院後期選択必修科目 2単位)、など

2 理念 (なぜやっているか：教育目標)

授業で期待する教育理念・教育目標は、心理学または教育の専門性を活かすことができる人材を育成するために、これまでの臨床経験と地域での実践的な活動を通じて得られたものを現状に即して伝えることである。社会に目を向けた応用力と柔軟な思考力を学生一人ひとりが身につけることを目標としている。

3 方法 (どのようにやっているか：実践の工夫)

今年度前期は、遠隔授業が対面授業の質を維持すると共に非対面形式の特性を活かした授業ができるような内容に変更した。心理演習と教育相談では学生の意欲と積極的な姿勢を期待したオンライン型アクティブラーニングを導入した。

4 成果 (どうだったか：結果と評価)

すべての担当科目でリアクションペーパーと授業アーカイブを利用し、学生の理解と復習に活用した。リアクションペーパーは Microsoft Forms を利用して、授業内容のフィードバックと質問を求めた。質問については授業内で回答し、必要に応じて Microsoft Teams の各科目チャンネルに回答を掲示・共有した (エビデンス①)。また学習の通信環境に不備が生じた学生に対応できるように授業は学生の許可を得て録画し、終了後に学生と共有した (エビデンス②)

5 今後の目標 (これからどうするか)

前期に活用した Teams と Forms を対面授業の補助として継続する。一方、事前・事後学修を授業内で毎回確認することができず、授業内容の理解と定着に個人差が生まれているように思われる (エビデンス③) 後期は授業で使用する配布資料は授業時だけではなく、Teams のチャンネルで学生に公開して予習・復習による効果的な学習の定着を目指したい。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

- ① Microsoft Teams と Forms に設置したチャンネルと回答フォーム（非公開）
- ② Microsoft Stream の授業動画
- ③ 講義要綱（公開）

ティーチング・ポートフォリオ

松岡靖子

(記入日：2020年9月23日)

1 教育の責任（何をやっているか：担当科目）

学部：基礎ゼミナール（1年前期必修科目2単位）、心理学概論（1年後期必修科目2単位）、特殊実験演習（3年通年選択必修科目2単位）、発達心理学（2年後期必修科目2単位）、教育・学校心理学（2年前期選択必修科目2単位）など
大学院：臨床心理基礎実習（大学院1年前期選択必修科目2単位）、臨床心理実習・実習Ⅱ（大学院2年前期、後期選択必修科目各2単位）

2 理念（なぜやっているか：教育目標）

学生が心に関する幅広い知識を得ることによってその知識を通して学生自身の経験や世の中で起こっている問題を新たな視点から見つめ直し、更に主体的に問題解決の方策を探っていく方法と態度を身につけることを目標として教育を行っている。それにより川村学園女子大学が目指す、激しく変化する社会を柔軟に乗り越えるための「教養」を身に着けた自覚ある女性を育成することができると考えている。

3 方法（どのようにやっているか：実践の工夫）

どの講義においても、学生が心理学の知識を自分の経験や世の中の問題とつなげて理解することができるように、知識とつながる具体的な例を多くあげながら解説している。今年度前期はオンラインであったが、学生のネットワーク状況を確認し、一定時間のリアルタイム授業の時間を設けた。ネットワークの不調などもあり得ることから、1週間以内であれば何度でも授業内容を確認できるように録画動画も用意した。

また、Microsoft Teams の Forms を用い、1回の講義ごとに授業の振り返りコメントの入力を求め、リアクションペーパーの代わりとした。Forms に記入された質問は可能な限り次回講義のはじめに取り上げて回答し、疑問を残しておかないようにするとともに、一方通行ではなく相互のやり取りで講義が構成されるという実感を学生にもたせるように工夫した。

基礎ゼミナールでは Microsoft Teams のチャネル機能を用い、学生がグルー

プで協議する課題を設定し、小グループで学生同士の相互理解を深めながら課題に取り組む時間を作った。期末課題としては、このオンライン授業の体験を振り返りながらデータや論文の引用を行い、取り組む課題を設定した。

4 成果（どうだったか：結果と評価）

講義形式の授業については、学生がそれぞれ自分の経験とつなげ合わせながら理解を深めていることが **Forms** のコメントやレポートで確認された（エビデンス1、2）。基礎ゼミナールのグループワークにおいては、はじめは顔が見えない状態であるため発言のしづらさがあったようであるが、同じグループで何度かグループワークを行っていくうちに慣れ、仲を深めることができたとの感想が寄せられた（エビデンス1）。

5 今後の目標（これからどうするか）

学生がより社会的事象に興味関心を持ち、心理学的視点から考えることができるように事前事後学修を具体的に促していく。

6 エビデンスとなるもの（資料の種類などの名称）

1. **Forms** 記録（非公開）
2. 前期末レポート（非公開）